

新宿区立新宿養護学校

ひまわり

令和5年 9月号



↑カラー版はこちらから

『修学旅行を終えて』

校長 門脇 伸也

「本当に大切なものは目に見えない」、これはサン＝テグジュベリの著書「星の王子さま」に出てくる名言です。「目に見えない大切なもの」とはなんでしょう。以外に身近なところにある些細なものかもしれません。その些細なことを見ようとしなければ、大切なものは決して見るできないということ、この名言は私たちに伝えているのではないのでしょうか。

「特別支援学校に在籍する児童・生徒たちは、学校で指導する時も、家庭で育てている時も、日々の中で大人たちと綱引きをしています。だからこそ、教員や保護者は子どもの小さな成長に気付くことができるんです。これは素敵なことなんですよ。」、これは新宿養護学校へ赴任して間もなくして、某都立特別支援学校の校長先生から伺った話です。いつまでもこの感覚をもち続けていたいものです。

さて、今年の夏は例年になく暑く炎暑でした。ですが、今は朝夕の風が秋を運んできています。

9月21日から22日、中学部3年生の修学旅行を無事終わることが出来ました。コロナウイルス感染症対策により4年ぶりの実施となりました。生徒にとって最初で最後の宿泊行事となり、「友達と宿泊行事へ行けたよ」という事は、これから大きな意味をもっていくのでしょうか。

安全な修学旅行を第一に考えて、移動時間に余裕のとれる地を選んでの実施でした。本校の児童・生徒は、移動中の車両の振動やいつもと異なる環境により体調が悪くなることがあります。往復のバスでの移動はバス会社と詳細に打ち合わせをし、経路の中で一時停車できる場所も探し計画に入れました。

午前は旧島津家本邸を見学し、午後は講堂をお借りしてのジャズバンド生演奏会を聴きました。ゆとりある静かな空間と音の響き良い贅沢な空間を、1日目の見学地である清泉女子大学には、用意していただきました。今もって大学の配慮に感謝しております。

お陰様で生徒の体調はとても良好で、宿舎である品川プリンスホテルへは計画どおり到着しました。

夕方から保護者と合流し、夜はホテルに隣接する水族館でイルカショーを見学しました。保護者も宿泊することで、体調を整える時間もとれて、良好な体調で2日目は始まりました。午前はゆっくり水族館を見学し、生徒たちの好奇心に満ちた表情を見ることができました。さらにホテルから「午後2時までチェックアウトを延ばしませんか」と提案をいただき、身体を休めて体調が整ってから、帰りのバスへ乗車することが出来ました。今もってホテル側の配慮に感謝しております。

この修学旅行を通して改めて、安全安心な宿泊行事の在り方とは何か、捉え直す良い機会となりました。宿泊行事は何よりも安全安心に配慮する必要があります。同行する医師は区内の大病院から派遣していただきましたが、夜間、看護師はいません。多様な障害特性のある児童・生徒の増加傾向にある中で、如何に宿泊行事を実施していくか課題は尽きませんが、制度は改善されていくものと捉えております。

学校教育では教科の学習だけではなく、運動会、学芸会、音楽会、展覧会、移動教室等々の特別活動への取り組みを、グループ・学年・学部としてのまとまりの中での活動を通して、児童・生徒の主体性や協調性、感性を磨き表現力を高め、創造力を豊かなものにします。これは生涯にわたって主体的に学び続ける力を身に付けていく上でとても大切なこととなります。

今後とも本校の教育活動が充実していくように、関係機関及び保護者の皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。



「2組クラス遠足」

小学部

9月8日（金）に、小学部2組でサンシャイン水族館に行きました。東京に台風が接近している中、外での見学は厳しいと思われましたが、雨が上がり、全てのフロアを見学することができました。館内は、「大海の旅」「水辺の旅」「天空の旅」の3つのフロアに分かれており、それぞれ違う場所に生息している生き物を楽しむことができるようになっていました。子どもたちは事前学習で、各フロアでじっくり見たい水槽を決め、見学しました。この日を楽しみにしていた子どもたちは、色とりどりの魚が泳ぐ水槽や、普段見られない大きな生き物を、前のめりになりながら見学していました。普段見ることのできない生き物を間近で見学することができ、子どもたちにとってよい経験となりました。事後学習では、水族館で見た生き物の中から、好きな生き物を選び、しおりの最後のページに絵を描きました。それぞれ気に入った生き物が違い、友達の発表を楽しく見たり聞いたりすることができました。



「3組クラス遠足」

小学部

9月12日（火）に、小学部3組で東京タワーに行ってきました。午前中は展望台の見学をしました。天気にも恵まれ、東京の景色を一望することができました。また、床がガラス張りになっている「スカイウォークウインドウ」があり、その上に立ったり座ったりしながら下を覗き込み、地上150mの高さを体験しました。お弁当を食べた後はお土産の買い物をしました。事前に買うものを決めていた商品を探し、お会計まで行いました。みんなそれぞれ満足のいく買い物ができたようです。

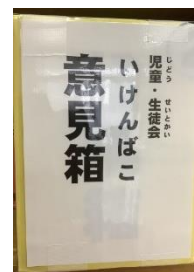
一日の体験を通して楽しい思い出ができ、クラスの交流を深めることができました。



「児童・生徒会活動について」

児童・生徒会担当

新宿養護学校の児童・生徒会は、小学部5年生から中学部3年生までの幅広い学年層のメンバーが、児童・生徒の代表として、日々の学校生活をよりよくしていくための活動に取り組んでいます。今年度は過去最多となる小学部6人、中学部10名の計16人ものメンバーが5月の児童・生徒会総選挙で選ばれました。これにより、昨年度以上に多様な意見を話し合いの中で反映させることができました。1学期では、主にあいさつ運動、緑の募金活動、学校行事の司会、学校行事のスローガンの考案を行いました。昼休みや登下校の時間を使い、活動を行っています。また、児童・生徒会意見箱を設置して、児童・生徒みんなが学校生活をよりよくしていくために、やりたいことを活動に反映しやすくしました。2学期も、ひまわり祭の司会や、デザートもりもり運動といった様々な活動に取り組んでいくことを予定しています。



「交流の日」

特別活動

天候が心配されましたが、無事に交流の日を迎えることができました。今年度は、9月15日（金）と9月16日（土）の2日間に分かれて「新宿養護祭り（縁日）」を実施しました。1日目は、児童・生徒同士、2日目は保護者の方々をお客さんとして迎え、屋台やボウリング等の出し物を通して、お祭りの雰囲気を味わいながら児童・生徒間の交流を図ることができました。また、校庭に巡行した「新宿子供神輿」を地域の子どもたちと協力し、「えいさ、ちょいさ」の掛け声に合わせて、嬉しそうに担ぐ子どもたちの姿が見られました。

今年度も十二社商店親睦会の方々3名と工学院大学の学生ボランティア4名に御参加いただきました。地域の方々に本校のことや児童・生徒のことを知ってもらうことができ、地域の方々と交流を深める良い機会となりました。この日をきっかけとして、今後も地域の中の新宿養護学校として、地域の皆さまと深く関わっていききたいと思います。



研究部より～ICTを活用した実践～

「視線入力装置を用いた言語活動」

研究部

つくし・ばら・ダリアグループでは、2つの選択肢を見比べて、やりたいことや現状に当てはまるコミュニケーションカードを注視して教師に伝えることを目標とし、課題別学習の時間に授業研究を行いました。視線入力装置は、1年以上前から週1回程度の練習を継続しています。ゲーム要素があり、結果を見た児童の反応が分かりやすいアプリの使用を繰り返すことで、視線入力装置を使った学習に慣れてきました。

本研究では、コミュニケーションカードを使い、今の体調や気持ち、今日は何をやりたいかについて自身の気持ちを伝える練習をしました。視線を映し出すアプリケーションを利用し、カーソルの色を目立つ物にし、児童自身や教師が何を見ているのか分かるようにしました。児童の興味のあることに関してやり取りをすることで、反応がよく表れていました。複数のコミュニケーションカードを選択して、気持ちを伝える手段として視線入力装置を利用できるよう今後も練習を続けていきます。



授業で用いた視線入力装置